学校と博物館をつなぐ情報誌　No.２４６（令和５年１月号）

いのちのたび

〒805-0071　北九州市八幡東区
東田二丁目４番１号
Tel 681-1011　Fax 661-7503
HP　https：//www.kmnh.jp/
発行：いのちのたび博物館
ミュージアムティーチャー

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

開館20周年Yearもあとわずか、２月には、１ヵ月閉館します。３月にリニューアルオープンしたころには、また新しく生まれ変わった、博物館をお披露目できると思います。お楽しみに！

うなぎの旅展

現在、開館20周年記念特別展として開催中のうなぎの旅展の様子です。

4年生国語「ウナギの謎を追って」にも出てくるレプトケパルスの標本もあるよ！

系統から見たウナギの標本です。どんな仲間がいるのかな？

みなさまのお越しを、お待ちしております！

先生、ちょっと聞いて！

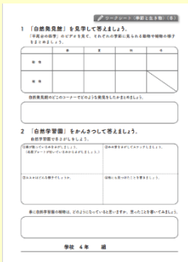
～博物館がこんな学習に使えるよ！～

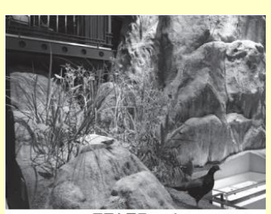
博物館での学修時間	１時間
場所	自然発見館

小学４年理科「季節と生き物（冬）」

季節の変化による植物や動物の様子を確かめよう。

自然発見館には平尾台の自然を展示したコーナーがあり、「平尾台の四季」のビデオは春夏秋冬 と変わりゆく植物や動物の様子を 4 分間で詳しくまとめています。このコーナーを活用することで、 平尾台の一年間を通して植物や鳥、昆虫などがどのような姿を見せてくれているのかを知ることが できます。また隣接している山田緑地の自然コーナーでは、北九州の林の様子を学ぶことができます。 その他、鳥や虫の音を聞くコーナーもあり、児童にとって興味をそそられる展示がされています。





平尾台展示コーナー

平尾台ビデオコーナー

詳しい指導計画やワークシート等は、右のQRコードから見られるよ！

ミュージアムのタネ

大地の変化を知る

ゲームやスポーツでは強大な相手と向き合うときには相手をよく知ることが大切です。自然科学も同じことが言えます。私が取り組んでいる地質学は、地球と向き合う学問です。研究対象には地殻変動や地震なども含まれます。

大地の変化を知るための最も基本的な方法は現地に赴いて行う地質調査です。野外を歩き、岩石や地層の観察と記録を行い、サンプルの採集と分析するのは一見地味で大変そうですが、大地の変化の直接的なデータを得られます。大地の変化を肌で感じられるのも地質調査の魅力だと思います。

大地は多かれ少なかれ日々変化しています。「世界の屋根」と呼ばれるヒマラヤ山脈は、ユーラシア大陸とインド亜大陸の衝突により今も少しずつ高くなっていることが知られています。その速さは大地の変化としては速い方ですが、それでも日常的に感じることはありません。しかし、現地で地質調査すると、地層が大きく曲げられていたり、標高４０００m近い高地で海の生き物の化石が見つかったりして、この変化が「本当だ」と実感できます。

急激な大地の変化の代表は地震でしょう。地震はプレート境界やプレート内部の断層が高速ですべって起こります。北九州市は日本の中では地震の少ない地域で、地震により人が亡くなった記録は見当たりません。しかし、市内には将来的に地震を起こす可能性のある活断層が２つあり、地震と全く無縁ではないことが分かっています。

私は、ここ数年間「スロー地震」という少し性質の異なる地震の地質学的研究に関わっています。スロー地震は、プレート境界で起こる比較的低速のすべりで、それ自体はほとんど地震を起こしません。しかし、巨大地震の引き金になる可能性があるため注目されています。私は共同研究者とともにプレート境界でできた岩石に残されている（はずの）スロー地震の痕跡を探して野外調査をしています。これはなかなか大変な研究ですが、目の前の岩石から過去にプレート境界で起きた（今も起きているだろう）大地の変化を読み解くのはワクワクする体験です。

地質学の研究は、相手（地球）が大きいだけに時間がかかります。考えが堂々めぐりして研究が前へ進まないこともよくあります。それでも野外に何度も足を運んだり、さまざまな分析をしたりして、大地の変化を知ることで地球の仕組みを解き明かすことを目指しています。

（自然史課学芸員　森 康）